

## 永山神主家史料

高倉芳男

## 一 永山神主家史料について

本稿の文書を所蔵していた橋本家は、大原宮神職橋本氏の一族であり、江戸時代には大原宮神職の他に永山布政所関係の神社の祭祀に携っていた。そのため「永山神主日記録」なるものがあり、寛政二年から明治二十二年まで約百冊に達しており、徒らに死蔵されておるかの如き説がなされたので、この事について知っている点について述べる。

五・六年前永山神主家（橋本家）の親戚にあたる高瀬重良氏が日記・書簡等の古史料を持参して、先生が保管して郷土史の研究に役立てて頂きたいとの事であったので預ったのが、本稿の目録にある日記等である。高瀬家（南・西高瀬庄屋）の文書は「御廻状留」（日田史料十一）、「諸家日記二」（日田史料十五）で刊行したのでこの史料も「大原宮日記」

（日田史料二十三）として刊行し、今後もこれを続けたいと思っている。

本年五月初、高瀬家には先年預った以外に永山神主家史料がある<sup>②</sup>と聞いて調べさせて頂いた。形式は

嘉永元戊申歳

日記

上屋敷

の表紙で、日記が日記録に、上屋敷が永山神主になっているもの等もあるが、大体同じ形式で寛政六・九、文政四・八・十二と五冊がとびとびにあり、嘉永からは明治二四年まで揃っている。只嘉永は三月十五日の改元であるから、嘉永元戊申の表紙は後で付けたものであるうか。他は嘉永七、安政七、萬延二、文久四、元治二、慶応四と改元前の元号を用いていて元年の元号のものはない。

## 二 史料目録について

筆者が保管している史料のうちで一番整備しているのが大原宮日記であるが、文化二年（一八〇五）から明治五年（一八七二）までの六十八年間に前半後半にわけて一部欠けたものまで含めても十四冊（年）しかない。併し現在の大原宮に

も天明・寛政等の大原宮日記が所蔵せられているので、永山神主家には初めから完備してはいなかったたのであろう。

月番記録・社用日記・大原記録は単なる名称の相違か三種（又は二種）の日記が書かれていたか不明であるが、これも全部の記録・日記を併せて十部しかなく、しかも表紙その他の欠損が多い。

その他に記録年代の記されているものまたは年代のわかるものが四十四部あり、年代不明のものが九部あった。

なお記載に当っては通し番号・各分類番号の下に表紙の記載事項を右からの順に記し、表紙のないものはその旨を記した。次に行を改めて参考のために蛇足を加える事とした。証文・書簡類は整理中であるので、後日完了後に発表する予定である。

永山神主家史料については前述のように誤解されている点もあるので、末広利人氏の指教により高瀬重良氏と相談して起稿した。

### 三 史料目録

#### A 大原宮日記（1～14）

11 文化二乙丑歳 大原宮日記 惣社中

極書、月番、祠官月番等が前書きされていて、元日から六月十七日までの記録が一綴になっている。

22 文政五十年 大原宮日記 正月神吉日社中

定書、月番役掌、月番祠官に続いて正月元日から大晦日まで

33 文政六年の日記（七月四日まで欠）七月五日から十二月三十日迄の日記で、文政六年のものと思われる。

44 文政八乙酉（半欠）大原（以下欠）正（半欠）月神吉日 神官等

定書 年番 月番等につづいて正月元日二月十四日まで表紙ともに十三枚が残っている

55 文政八年大原宮日記の一部か

三月十二日から大晦日まで記されており、記事の内容からみて文政八年の大原宮日記と推測される。

66 文政十亥年 大原宮日記（欠）月吉日 神官等

定書、年番、月番等につづいて正月元日から十一月二十七日迄であるが十月十日以後は記入もれが多い。

77 文政十三年か（表紙を欠く）

定書、月番、年番、社頭勤仕順に続いて正月元日から十二月三十日迄記されている。

8 8 文政十四年辛卯歳 大原宮日記 (正を欠) 月神吉日 社中

定書、月番、年番、社頭勤仕順に続いて正月元日から十二月三十日までほぼ整っている。

9 9 天保三年大原宮日記か(表紙欠)

表紙と定書の一部を欠き、月番、年番、社頭勤仕順、二月初旬、十一月初旬、十二月十四日祝祭座の神官名があり、正月元日から大晦日までの日記となっている。

10 10 天保四癸己歳 大原宮日記 正月神吉日社中

定書、月番、年番、社頭勤仕順。続いて正月元日から大晦日まで記されている。

11 11 天保五甲午歳 大原宮日記 正月神吉日神官

定書、月番、年番、社頭勤仕順番、正月元日から十二月三十日の日記

12 12 天保六乙未歳 大原宮日記 正月神吉日神官中

定書、月番、社頭日勤順、正月元日から大晦日までの日記

13 13 大原宮日記(表紙の右上部欠失大原の二字半欠) 正月

神吉日 神官中、慶応二年の日記か、定書、勤仕順、月番、正月元日から十二月十二日まで

14 14 明治五壬申歳、大原神社日記、正月神吉日、社中

定書、勤仕順、月番、正月元日から十二月二日までと、次に明治六年一月一日晴天等と記している。

B 月番記録(15~17)

15 1 文化九壬申年 月番記録 正月吉日 大原役掌

元日から九月二日までの月番の神職の記録で正月は宮大夫、九月は三俣遠江となっている。

16 2 表紙を欠くが文化十年の月番記録であろう。

一月(月番宜祿長)から潤十二月(月番宜祿長)まで

17 3 文政三庚辰年、大原社月番記録、春自正月吉日

二月(月番橋本宮内、同内記)から、九月(月番橋本式部・熊谷帯刀)まで

C 大原記録・社用日記(18~24)

18 1 文化四丁卯年、大原記録、七月朔日

七月朔日から十二月まで(欠)

19 2 表紙を欠くが元日の右上に、文化六己年と書してある

元日から三月十五日まで

20 3 文化七年社用日記 午正月 執事（カ半欠）

元旦から十月まで

21 4 文化十一年 社用日記 戌正月

元日から十一月まで

22 5 表紙欠<sup>④</sup>

正月——十二月

23 6 表紙欠

二月——大晦日

24 7 表紙欠

元日から八月まで。

D 雑書（年代判明のもの）（25～68）

25 1 奉加帳

冒頭の趣旨書によれば「延享二年十二月日橋本勘解由」

とするされており、奉加した者は「一白銀志枚 俊唯」

以下二十一名で、この中の二十名が代官所の属吏達であ

ろう。

26 2 御宮定 28 × 21

御宮式法定の題で始まり、定として神祇道その他の項目

からなっている。卷末に天明三年卯三月神吉日とある

27 3 御宮定 24・5 × 18

前者の副本であろう。前者同様に卷末に天明三年卯神吉

日とある。

28 4 寛政三年貫首宣祿長 大原宮御神用並日記扣 辛亥正月

吉日

「廿三日社頭勤番右京……」から始まっているが、特に必要のあった時に書いたものである。日もとびとびになっ

29 5 寛政四子年 御用諸事日記 孟春吉日貫首橋本内膳・社

代熊谷帯刀

前者同様であるが、特に欠けた部分が多い

30 6 寛政六甲寅二月甲子日 御陳屋稲荷者出勤控 志番橋本

出雲

志番と表紙にはあるが、丑の十二月二十九日から初まり

九月廿二日で終っている

31 7 御城山稲荷社祭定式 橋本出雲

卷末に「寛政六寅三月十八日扣記」とある。

32 8 表紙欠

文中に寛政十年の届書があるので、こゝに入れた

33 9 勸化帳 永山神主橋本公安

文化元年子十一月 日田御陣屋永山稲荷神主橋本掃部とある。

34 10 文化元甲子十月 久留島様御社参扣 鈴木益人・橋本掃部

35 11 文化三丙寅年ヨリ 御役所出勤留 正月吉日同四丁卯年

十二月迄 源公安追記之 横綴 14 × 20

36 12 表紙欠

勸化帳であろうか、文化三年寅十一月 日田永山神主橋

本掃部源公安と文中にある。

37 13 文化九壬申四月日 諸国神社拜礼録 豊後日田郡大原宮

官橋本鈴吉

周防玖珂郡荒木楚神社から備中窪屋郡御崎宮までの神社

巡拝録

38 14 社頭年中行事 橋本掃部

御城山金毘羅社に「文政元年御代官……」とあるのでこ

こに入れる。

39 15 大原宮縁記 橋嶋

卷末に「天保五年七百六十一年ニ成ル」と記してある。

40 16 冠辞例 7 × 16

奥付に「天保五年甲午五月 新增補改刻」とある。木版

41 17 天保七丙申春 大原宮屋根葺替御選宮式扣 橋本主水

卷末に月番橋本式部・新座河内・橋本隼人、会所詰祝原

恵五郎、渡里源平、懸り役小迫藤平、女子畑庄左衛門と

ある。

42 18 歳中行事控 永山神主橋本公榮

天保十一年頃のものか

43 19 天保十二辛丑十二月廿一日 西国御郡代竹尾清右衛門様

御入部扣 御陣屋神主橋本主水公榮

十二月廿日付から廿四日の日記

44 20 社家規則境界録 橋本八百会公春

弘化二年の橋本公春の書写である。

45 21 従 公義被 仰出御条目写 橋本公春 卷末に「弘化四

未歳冬 橋本八百会公春写之」とある。

46 22 嘉永四年亥夏 御屋根取繕一件書 橋本掃部

同年四月から五月にかけての取繕いの記録

47 23 嘉永四辛亥三月廿二日方同廿六日迄 於 御城山稲荷社

御郡代様を祈晴祭五穀成就御祈禱扣 神主橋本主水

48 24 嘉永四年亥五月吉日 隈町天満宮御遷宮佐法扣 神主橋

本掃部

49 25 嘉永五壬子閏如月 九百五十年隈町天満宮御神忌扣 橋

本掃部公春

50 26 嘉永五年 大原宮放生会行列帳 子八月郡内村々の分担

が記してある。

51 27 嘉永七甲寅年八月 年中御社頭勤仕向書附 橋本掃部

52 28 嘉永七甲寅年 御屋根葺替大原宮遷座式扣 橋本掃部

53 29 安政二卯七月 於 永山稲荷社祈雨御祈禱扣 神主職橋

本掃部公春

54 30 龜翁山春日社御遷宮扣 橋本掃部公春

安政三年に現龜山公園の頂に春日神社を建立した由来が

文末に記してある。

55 31 安政三丙辰年八月 於 御城山稲荷社御郡代様五穀成就

祈雨祭御祈禱扣 永山神主橋本掃部公春

56 32 安政五年午六月從十七日十九日迄 於永山社從 殿様祈

晴祭式夜三日執行扣 神主橋本掃部

57 33 安政六年未五月四日方六日迄 於御城山稲荷社式夜三日

祈晴祭御祈禱扣 神主橋本掃部

58 34 安政六年 金銀出入帳 二月 12×16 横綴

59 35 文久四年甲子三月吉日、四月を元治元年と改ゆ 窪田治

部右衛門殿御入陣扣 御陣屋神主橋本掃部正

四年三月八日から十三日までの日記

60 36 元治紀元甲子極月 御鏡餅御寄附御名前帳 橋本掃部

61 37 元治元年 志願組立雑用控帳 甲子冬より 月番 12×

35 横綴

62 38 明治己巳十一月 長州道行振 公春 6×17 横綴

63 39 御社用留 大原社

明治二年三月の日田県の御触書から同六年の大分県権令

の通達まで

64 40 表紙欠 二枚

文末に明治三年三月豊前人渡辺重春とある

65 41 書上記 豊後国日田郡陣屋回村・竹田村兩村における橋

本千秋が奉祀する神社名・祭神・祭日等。

66 42 表紙なし

通達で末尾に「壬申正月十日旧日田県庁」とある

67 43 触書 神社規則

前者同様明治五年の旧日田県庁の通達である。

68 44 明治二年七月廿六日出立 防州山口行旅中日記 13 × 17

横綴

E 雑書 (年代不明) (69 ~ 77)

69 1 寅御蔵所御初穂 永山神主橋本掃部

表紙共二枚 八ヶ村

70 2 神社調所

又連村会所神社の神主高倉雪雄が奉祀する神社の調所

71 3 新撰百人一首 橋本氏

最初に後醍醐天皇、最後に光格天皇の御製が記されている。

72 4 大波羅社・永山神社御鏡餅寄付帳 神主橋本千秋

73 5 限町天神社祭式 神主橋本掃部

二月・八月の祭式についてのべている。

74 6 天冨地府祭行事秘中伝 13・5 × 20 横綴

75 7 鎮宅靈符法 15 × 21 横綴

76 8 大祓式

77 9 御鏡餅御寄付御名前帳 橋本主水

註① 『日田文化』二二号の「永山神主「日記録」抜萃―慶応四年か

ら明治三年に至る―」

② 川田貞夫氏は四・五十冊としている(吉川弘文館『日本歴史』三八八号)

③ 天明八年の大原宮日記は『日田史料』二四として刊行

④ この567は塩谷郡代の頃の社用日記と思われる

【新刊ご案内】

大分大学名誉教授  
別府大学教授  
文学博士

渡辺澄夫著

『改訂 豊後大友氏の研究』 第一法規出版

増補 A五判 約三七〇頁 予価三、八〇〇円

九州中世史に多大な足跡を残した豊後大友氏について、

著者積年の研究を集大成した大友氏研究の改訂増補版、

八月下旬全国一斉発売予定。

お申し込みは全国有名書店へ